

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録（2014.12）平成25年度:107.

外科的フットケアチームの看護師の役割

照本 愛, 後藤 ミク, 坂上 綾野, 大西 つぐみ, 増田 彩, 田中
芙美, 本間 美穂, 植山 さゆり

外科的フットケアチームの看護師の役割

旭川医科大学病院 9階東ナースステーション ○照本 愛、後藤 ミク、坂上 綾野、大西つぐみ
増田 彩、田中 美美、本間 美穂、植山さゆり

【背景】

当院は医師と特定行為に係る研修制度事業対象看護師と病棟看護師からなる外科的フットケアチームを立ち上げ活動している。チーム内の看護師の役割は、潰瘍処置の実施、創部の観察、治癒経過の把握、創部の自己管理を要する患者への自己処置指導、退院時指導がある。今回、看護師が創処置時に異常を早期発見し早期に治療につながった事例から、外科的フットケアチームの看護師の役割を再検討する。

【患者背景・考察】

ASO、糖尿病性腎症で透析施行中。左足趾に潰瘍形成し、1～3趾切断後、下肢血管のバイパス術施行。その後、筋皮弁術を行う。術後の安定した創に対し看護師での創処置を開始する。筋皮弁後の創処置時に皮弁の色調不良に気が付き異常の早期発見、早期治療に繋がった。

毎週、創の評価を医師と行い、定期的にフットケアカンファレンスを開催し情報を共有したことがアセスメント能力の向上となり、早期発見に繋がったと考える。患者の心理面に関しては、処置の際に「足を見ることが出来ない。怖くて一回も見たことが無い」と創部を受容できていない反応があり、フットケアチーム内で情報共有し、創状態の説明や訴えを傾聴する関わりを行った。その後、徐々に受け入れるような反応があった。

【結論】

看護師が患者の反応を確認しながら創処置を実施することで、患者は疾患や治療に関する思いを表出しやすい状況を作ることができ、精神的側面を含めたケアを実施できた。